

【勝山市】

校務DX計画

1. 趣旨

勝山市では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から ICT 環境の整備を進めてきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、本市では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取組を進めることとします。

2. 勝山市における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省令和5年11月実施）を踏まえ、勝山市における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要があります。

（1）GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

校務DX化チェックリストの結果によれば、「教職員が作成した教材等をクラウド上で共有する」といった取組は多くの学校で実施されています。しかし一方で、「クラウドサービスを活用したテストに係るCBT（※1）の導入」など、児童生徒を対象とした利用については、十分に進んでいない状況です。FAXについては、通常業務での使用はしていませんが、給食食材発注においてFAXの方が確実に確認できるとの理由から一部使用が残っています。また、押印が必要な書類がまだ多く残っていることが課題となっています。

（2）教育情報セキュリティポリシーの必要性

本市では、教育情報セキュリティポリシーについては、市が定める情報セキュリティポリシーに準拠しており、教育現場の現状に即したものとなっていない状況にあります。

今後は、国の方向性や現状を的確に把握し、クラウド上のデータやサービスの活用を前提とした新たな教育情報セキュリティポリシーの策定が求められます。また、学校では児童生徒に関する多様な情報が日常的に活用されていることを踏まえ、児童生徒の存在や情報の多様性・多目的性を十分考慮した情報セキュリティ対策を講じることが重要であるため、まずは教育現場の実情に合った現実的で実効性のある教育情報セキュリティポリシーをの整備を進める必要があります。

3. 校務DXに向けた取組

（1）業務を支援するツールを活用した効率化の推進

児童生徒を対象とした利用について研究を進めます。授業はもちろん、家庭学習など、児童生徒

の実態に応じた活用について、研究・実践します。また、クラウドツールを活用し、児童生徒とのリアルタイムでの連絡や学習状況の確認に取り組めます。また、教職員の業務負担を早急に軽減するため、既存の校務支援システムの活用方法を把握・評価の充実を図るとともに、教職員間の情報共有を促進し、校務支援システムの名簿情報を学習系アプリへ自動反映させる API 連携等の導入を検討するなど、校務の効率化をさらに推進していきます。FAX の利用については、関係業者との話し合いをもち、少しずつ廃止へと取り組みます。さらに、押印については、本当に必要なかを検討し、ペーパーレス化を推進していきます。

(2) 教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド活用を前提に、それに適したセキュリティレベルを確保しながら、データ利活用や個別最適な学びなど、新たな時代にふさわしい教育 DX の基盤を構築するため、教育現場の現状を踏まえ、「教育情報セキュリティポリシー」を令和 8 年 3 月に策定します。

【注釈】

※1 「CBT」とは、「Computer Based Testing (コンピューターベースドテストイング)」の略称で、コンピューターを使用した試験方式のこと。コンピューターのディスプレイに問題が表示され、マウスやキーボード等を使って選択肢を選んだり、答えを入力し解答を行う。